

# 人権アラカルト

すべての人が、幸せになる権利を持っています。

人権について、身近なこと、小さなことから、始めませんか？

## 思いやりで完成するデザイン

「ユニバーサルデザイン」は、利用しやすいデザインによって、すべての人が安心で快適に暮らせることを目指すもので、「バリアフリー」の発想から生まれたものも多くあります。ここで言う「デザイン」とは、図案や造形だけのことではなく、構造やシステムなども含む広い意味で使われています。

1985年、アメリカのロナルド・メイスは、幼い頃の病気が原因で、電動車いすを使って生活をしていました。彼は、バリアフリーで特別扱いされることに疑問を抱き、『初めから誰もが使いやすいデザインを考えればよい』との考えを広めていったのがユニバーサルデザインの始まりです。

私たちの街には子どもから大人、男性や女性、外国人や障害のある人、妊産婦やベビーカーを押す人など、さまざまな人が暮らしています。誰もが使いやすいものを考えるのは、とても難しいことです。新型コロナウイルスの影響で、急速に増えてきたタッチパネルも、子どもや視覚障害者などみんなが使いやすいものにするにはまだまだ課題も多いと思います。

また、やっとの思いで完成したユニバーサルデザインが、利用者側にその目的についての理解が不足していることもあります。例えば、エレベーターの中に設置された「鏡」。本来の目的は、車椅子利用者が「バックミラー」として使うものだと、皆さんご存知でしたか。この本来の目的を知っていれば、車椅子利用者がエレベーターを降りる時に「鏡」を体で隠してしまわないよう配慮することが出来ます。加えてこの鏡は、身だしなみを整えたり、防犯対策、さらには、閉所恐怖症の方にも役立っています。

このように、私たちの日常生活は、たくさんの素晴らしいユニバーサルデザインに囲まれています。利用する人の理解や周りの人の環境次第で、その快適性や安全性が損なわれることがないように、気をつけていかなければいけません。その「物理的なやさしさ」と「利用者側の理解と思いやり」がユニバーサルデザインの更なる進化に繋がっていくと思います。



ヘルプマークは、ユニバーサルデザインの一つです。

外見から分からなくても援助や配慮を必要としている方々(義足や人工関節をしようしている方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方)などが、周囲に配慮を必要としていることを知らせることで、援助を得やすくなるよう、作成されたマークです。

